

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大 学 名	立命館アジア太平洋大学
整理番号	B24
構 想 名	Global Learning：大学教育の新しい地平を目指す

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) S	優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる。
(コメント) <p>本構想が掲げた新たな指標「4つの100」に向けた取組は、初年次学生教育寮（81%）、多文化協働学修等実施科目（92%）、在学中の多様な海外経験（79%）、留学生出身国・地域（常時92か国・地域）と本構想終了時には最終目標の達成が見通せる状況にあり、これまで意欲的かつ計画的に本構想を推進してきた成果として高く評価される。</p> <p>順調な留学生取り込みの拡充を進め、教育寮での初年次教育の充実を図り、学生のロールモデルとなる人材を育成するオナーズプログラムを開始するなど、具体的な実績とともに確実に取組を定着させている。「多文化協働学習」の授業手法をまとめたハンドブックを作成し、米国ミネソタ大学と連携したファカルティ・トレーニングを実践するなど、授業改善を推進している。</p> <p>全学的な教育の質保証に関わる取組としてAOL (Assurance of Learning)推進委員会を組織し、ビジネススクールの国際認証であるAACSBを国際経営学部が取得するなどの実績が現れている。また、FD・SDを推進するグローバル教職員開発インスティテュート(IPG)を設置するなど、率先したアクションが目立つ。外部ステークホルダーによる外部助言機関としてGoverning Advisory Board (GAB)を設置し、事業改善に真摯に取り組む姿勢が実働として表れている。</p> <p>入試改革について、国際標準の新たな測定手法を導入し、オンラインの活用、国際標準のアドミッション・オフィサー制度導入など多面的入試にふさわしい取組をしている。また、転学部・転学科・早期修了など多様なアカデミックパスに柔軟に対応し、学生の言語力に応じたラーニングシステムの構築に努めている点も評価できる。さらに、海外教育プログラムの構築、社会人学生の受入れ、履修証明プログラムの開始など、順調に取組が進んでいる。</p> <p>自走化に向けて、事業内容を通常活動に組み入れ、国際化を引き続き推進する準備を段階的に進めている。事業規模拡大に伴う新たな財源確保に努め、授業料改訂、寮費改訂、収益事業の開始などを展開している。事業内容の合理化、人件費削減などの計画的な取組も評価できる。</p> <p>今後、我が国の大学の国際化に資するよう、本事業によって得られた成果を国内他大学に横展開できるよう、更に取組を進展されることを期待する。</p>	